＃　化学の力で福岡を守る

＃　1mm 以下の真実と向き合う

Profile

科学捜査研究所　化学第二科
平成２５年採用　警察行政職員
佐賀大学　理工学部機能物質化学科　卒業

＃　やりがい

私が所属する化学第二科では主に、微細物（繊維、塗膜など）、揮発性物質（油類、アルコール類など）、その他工業製品の鑑定（検査）を行っています。現場に残された微細物等が事件に関わっているかを調べる、警察の捜査には欠かすことのできない重要な仕事です。

物質の特定や異同識別には、わずか１ミリメートル以下の資料を数百、時には数千もの微細物の中から選定する緻密さ、様々な鑑定機器で分析する知識が必要となります。この微細な資料から犯人の特定や事故原因の推定、そして事件の解決に結びつけることができたとき、何ともいえない達成感、やりがいを感じます。

＃　警察行政職員になったきっかけ

私は大学の研究室で有機合成化学について学びました。就職活動をする際、大学で学んだ知識を世の中に活かしたいという漠然とした目標がありました。

当時、裁判員制度が始まり、客観的証拠が重要視されるという記事を読み、科捜研という仕事について興味を持ちました。

＃　印象に残るエピソード

ある日、警察署から「ひき逃げ事件の被疑車両に、被害者の着衣の繊維が付着していないか鑑定してほしい。事件を明らかにするにはこの資料しかない。」という依頼を受けました。

私は、「被害者の無念を晴らしたい。」その一心で持ち込まれた資料と向き合いました。当時、私の経験はまだ浅かったものの、先輩、上司からのアドバイスを受け、何百もある繊維一つ一つの鑑定を行った結果、被疑車両に付着した被害者の着衣の繊維を見つけだし、事件を解決に導くことができました。

＃　職場環境

科捜研職員は、犯罪が高度化・複雑化する中で、事件により迅速かつ正確に対応するために、鑑定方法等を改善開発することが求められます。私の職場は、先輩・後輩の垣根を越えて、お互いに意見を出し合いながら業務に取り組むことができる、風通しの良い環境です。

＃　警察学校等での生活

警察学校では、警察行政職員として事務職、他の専門職の方々と一緒に入校することになります。警察官とは違い、約１ヶ月間と短い期間ではあるものの、同期生との共同生活を通じて、社会人としての心構え、公務員、警察職員としての自覚を身に付けることができる良いきっかけとなりました。

また、科捜研の職員は採用から半年後くらいに３ヶ月の期間、関東にある科学警察研究所に入校します。ここでは、全国の同時期に採用された科捜研の職員が、鑑定に関する基本的な知識について研修を受けることになります。

この２回の入校で得られた同期生は、現在でも困った時に頼りになる存在です。

＃　休日の過ごし方

基本的には土日祝日が休みですが、警察署からの要請があれば、駆けつけて鑑定を行うこともあります。その際は、平日に振替休日を取得しています。

休日は、趣味のカメラを持ち出して、夜景や星空などの風景を撮影しに行っています。また、家族で食事や旅行に行くことでリフレッシュするようにしています。

＃　メッセージ

警察という身近だけれども固いイメージがある組織に飛び込むということは、なかなか勇気がいる事かもしれませんが、心配する必要はありません。警察学校入校等で得られる頼りになる同期生たち、職場の先輩方に支えられながら一歩ずつ成長することができます。

あなたのスキルを生かせる研究職員の採用募集があれば、是非受験してみてください。そして、同じ職場で一緒に働ける日がくることを楽しみにしています。